

所沢市 財政トークス



第40号「令和8年度当初予算」
所沢市財務部財政課 令和8年6月発行

所沢市の財政について、わかりやすくお伝えするために発行している所沢市財政トークス。今号は、令和8年度当初予算について、「1 予算総額」「2 歳入予算」「3 歳出予算」の3本立てでお送りします。

財政に詳しい方も、普段あまりなじみのない方も、この機会に、所沢市の財政について新しい発見をしていただき、興味を持っていただけたら幸いです。

◎予算は千円単位で作成していますが、ここでは1万円未満を端数処理し、万円単位で表示しています。

1 予算総額

一般会計予算総額 1,291億8,610万4千円

3月24日に議会で予算案が可決され、令和8年度当初予算額が決定しました。

予算総額は、一般会計で **1,291億8,610万4千円**、特別・企業会計を含めると、**2,255億4,542万円1千円**となりました。

一般会計予算額の推移



一般会計予算総額は、前年度比33億5,610万円増で**過去最大**となり、3年連続で1,200億を超える予算規模となりました。

所沢市庁舎基幹設備改修工事がピークを越えたことに伴う減(約14億7千5百万円)や第2一般廃棄物最終処分場整備工事が完了したことによる皆減(約18億4千9百万円)があった一方で、公共施設LED一括導入事業に係る費用の増(約14億円)や歳出の約半分を占める民生費(福祉に係るお金)が、社会保障経費を中心に増(約32億2千4百万円)となったことが増額要因として挙げられます。

今年度の予算では、**安心して子育てができる環境整備**を更に進めるとともに、**行政サービスの維持・向上**を図るため、社会保障経費の増加や物価高騰による経費増大を見込みつつ、各分野の必要な経費にしっかりと配分した予算編成となっています。

次のページからは、歳入・歳出の概要について、お伝えしていきます。

2 歳入予算

諸収入

17億1,519万円 1.3%
雑入(各種受入金や売電収入など)
等

使用料及び手数料

13億4,815万円 1.0%
行政財産の目的外使用料、
公の施設の利用料、行政手数料等

地方交付税

9億6,000万円 0.7%
自治体の財政力に応じて、
国から配分される財源

繰入金

71億2,795万円 5.5%
基金(財源の調整や、特定の
目的のために積み立てている
貯金)の取り崩し額

その他

58億6,941万円 4.5%
前年度からの繰越金や保育料、
その他の収入

市債(市の借金)

74億5,090万円 5.8%
道路や施設の工事などにあた
り、国や銀行などから借り入れ
る額

地方消費税交付金

92億5,800万円 7.2%
県から交付される消費税を
原資とした交付金

国・県支出金

364億7,408万円 28.3%
特定の事業に対し、国や県から配
分される補助金など

市税

589億8,242万円 45.7%
市民の皆さんや法人に納めていた
だく、市民税や固定資産税など

総額
1,291億
8,610万円



◆◆ 昨年度と比べて大きく増減したところは?? ◆◆

↑増額↑…市税(+22億9,647万円、+4.1%)

個人市民税15億8,578万円の増、法人市民税3億3,944万円の増をはじめとして、市税全体の増収を見込んだことにより、結果として22億9,647万円の増額となりました。

↑増額↑…国・県支出金(+25億1,272万円、+7.4%)

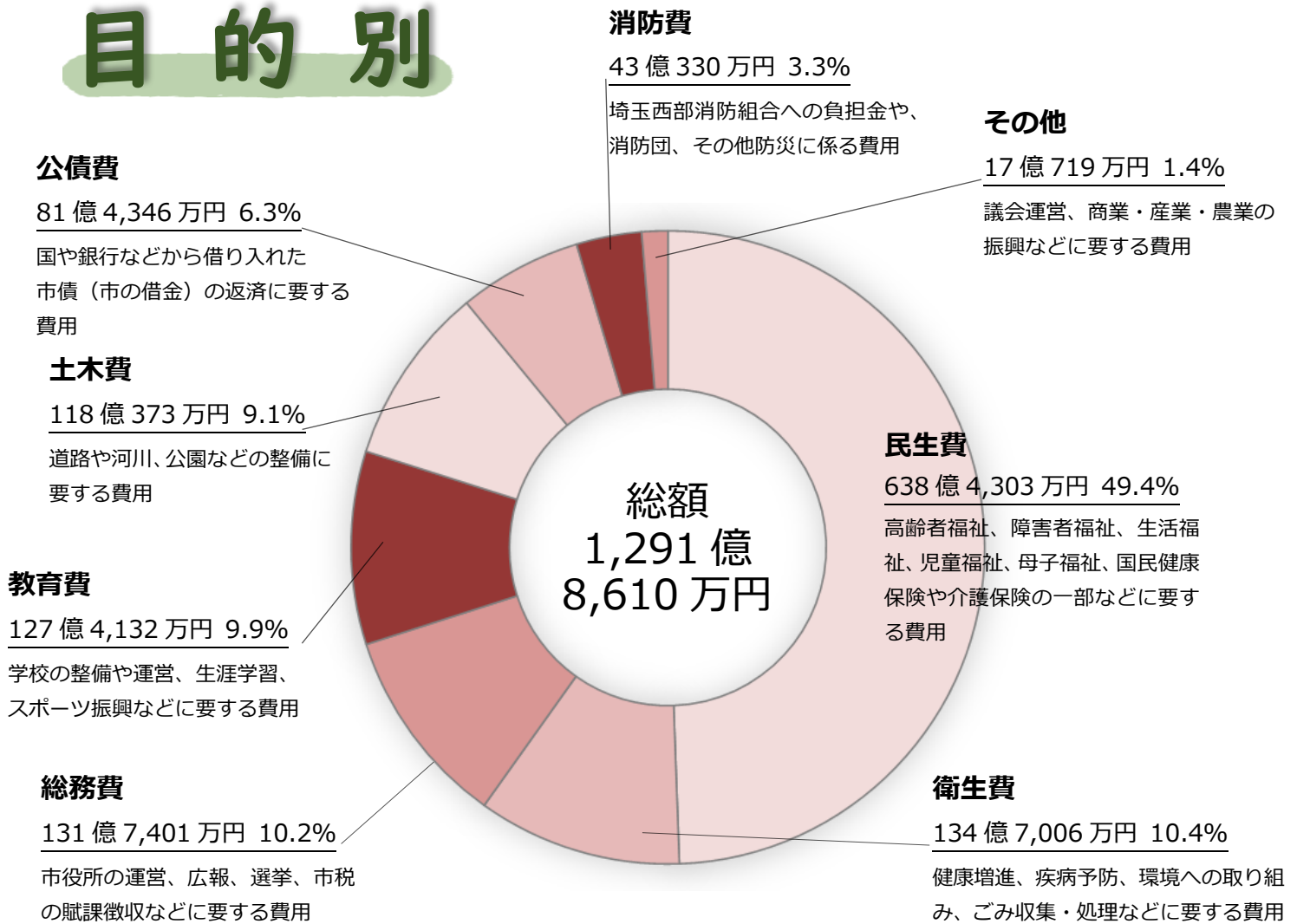
令和8年度からの国の施策で、小学校の給食費に対する保護者負担軽減のための交付金が歳入として約8億4,130万円見込まれることなどが要因となり、総額で25億1,272万円の増額となりました。

↓減額↓…地方交付税(▲19億円、▲66.4%)

普通交付税の交付基準額となる令和8年度の財源不足額の推計において、収入面での増額の見込みが大きくなったことから、結果として約19億円の減額の見込みとなりました。

3 歳出予算

目的別



◆◆ 昨年度と比べて大きく増減したところは？ ◆◆

↑増額↑…民生費(+32億2,369万円、+5.3%)

利用者の増が見込まれる障害者支援に係る訓練等給付費、介護給付費の増や、保護世帯数の増が見込まれる生活保護に係る生活扶助費、医療扶助費の増を主な要因として、増額となりました。

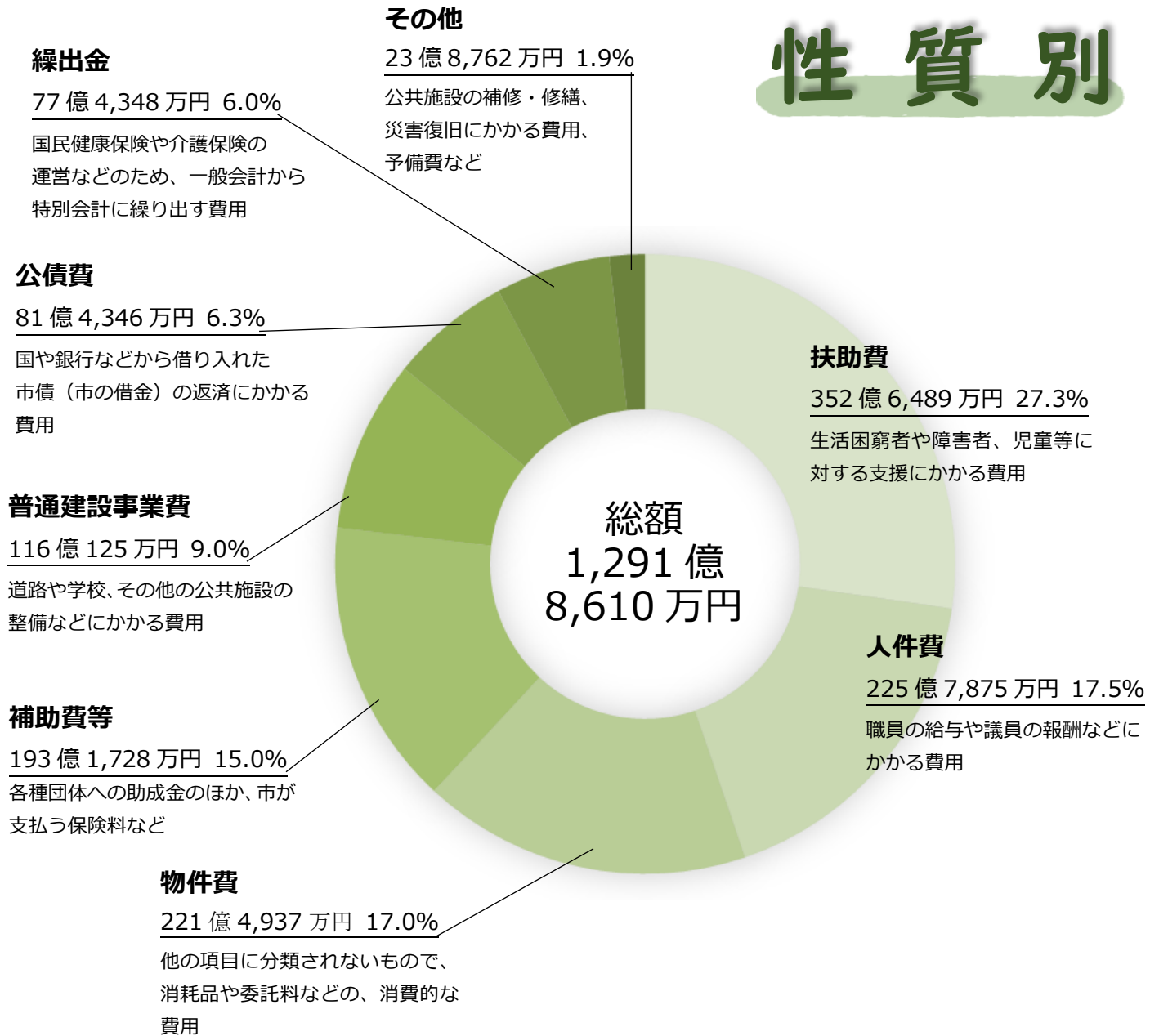
↑増額↑…土木費(+5億2,458万円、+4.7%)

所沢駅ふれあい通り線立体交差工事負担金の増(前年当初予算比 8億3,900万円)や、北野下富線道路築造に係る工事費の増(前年当初予算比 3億3,480万円)を主な要因として、増額となりました。

↓減額↓…総務費(▲8億9万円、▲5.7%)

所沢市庁舎基幹設備改修工事がピークを越えたことに伴う事業費の減(前年度当初予算比▲14億7,547万円)を主な要因として、減額となりました。

性質別



◆◆ 昨年度と比べて大きく増減したところは？ ◆◆

↑増額↑…扶助費(+17億2,705万円、+5.1%)

民生費の増加と同様に、障害者支援や生活保護に係る扶助費の増が主な要因となり、増額となりました。

↓減額↓…普通建設事業費(▲24億3,478万円、▲17.3%)

第2一般廃棄物最終処分場整備工事の完了による減(前年度当初予算比▲18億4,939万円)や市庁舎基幹設備改修工事費の減(前年当初予算比14億7,547万円)が要因となり、全体としては24億3,478万円の減額となっています。

所沢市の家計簿

ここまで所沢市予算のポイントをお伝えしましたが、自治体の財政は難しい言葉が多く、はっきり言ってわかりづらいですね。

そこで所沢市の予算を、毎月手取り30万円の家計として見てみましょう。



歳入予算を家計収入に例えてみたら？

給料	14万4千円 (約5千円↑)	市税 諸収入 使用料及び手数料
市からの給付金	8万5千円 (約6千円↑)	国・県支出金
親からの仕送り	2千円 (約4千円↓)	地方交付税
貯金の取崩し	1万7千円	繰入金
お金の借入れ	1万7千円	市債
その他	3万5千円	
合計	30万円 (約5千円↑)	

所沢市の歳入予算を家計に例えると左表のようになりました。

「市税」などの経常的収入を「給料」とすると、市税収入の増は約5千円の給料アップに相当します。

同じように「国・県支出金」の増は「市からの給付金」の約6千円アップに相当します。

一方で、国から交付される「地方交付税」は、両親からの支援(仕送り)に似たものですが、家計に置き換えると約4千円減ったものの、給料が増えたことを受けて減ったものなので、給料が多い分予算的には大丈夫そう、と言えるものです。



じゃあ、歳出は？

生活費(食費など)	10万4千円 (約6千円↑)	人件費 物件費
医療費・学費	8万2千円 (約4千円↑)	扶助費
子供への仕送り	1万8千円	繰出金
ローン返済	1万9千円	公債費
車の維持費	5千円	維持補修費
自宅の増改築	2万7千円	普通建設事業費
貯金	1千円	積立金 予備費
その他	4万4千円	補助費等
合計	30万円 (約5千円↑)	

歳出についても、3ページの性質別予算を家計に例えてみました。

約17億円の増となった「扶助費」は、「医療費や学費」の約4千円増加に相当します。

ほかにも、「人件費」や「物件費」は、家計で言うと「生活費」に近いですが、これも家計で置き換えると約6千円に相当する増加となっています。

全体として、市の歳出予算は昨今の物価高騰により増額を見込んでおり、家計で言えば、生活費などの増加により、全体出費で5千円の増額を見込んでいることとなります。

いかがだったでしょうか？物価高騰によって、生活費などの支出(歳出)は増加の一途を辿っていますが、一方で歳入の方では、景気の好転によって給料(市税収入)の増加を見込み、家計で言えば「生活水準を変えないまま、今までの暮らしを続けていけそう」という見込みのもとで組まれた予算と言えます。

簡単な例え方でしたが、市の財政を身近に感じていただけたら幸いです。

